第Ⅳ部門　　健康まちづくりへの主体的参加を目指した市民グループ結成の初期評価

関西大学　学生会員　○北村　良太
関西大学　　正会員　　北詰　恵一

1. はじめに

健康や医療をキーワードとした健康まちづくりでは，まちに住むすべての住民の健康を維持していくための取り組みや住民の主体的な参加が期待されている．しかし，健康まちづくりに対して参加の意欲を持つ住民がいるものの，行政をはじめ医療関係者，大学，企業，NPO 団体などまちづくりに関連する主体が多く，関係も複雑なため，「まちづくりガイドライン」などに基づく適切なマネジメントが必要である．また，住民はまちづくりに対してどのような参加の仕方をすればよいかが不明確であるのが現状となっている．

2. 目的

今後，健康まちづくりはさらに注目され，さまざまな都市で取り入れられると考えられるが，健康まちづくりにおける主体的な住民参加の事例は少なく，住民の役割が明らかにされていないのが現状である．そこで本研究では，健康まちづくりのための住民の役割を実践として吹田操車場跡地健康・医療まちづくり市民グループを結成し，第 1 回勉強会で実施したアンケートの初期評価から課題を抽出することを目的とする．

3. 健康まちづくりの考え方の整理

(1)「健康」の概念

1946 年世界保健機関(WHO)が提唱した WHO 憲章において，「健康」とは，「完全な身体的，精神的，社会的に良好な状態をいい，単に疾病あるいは病弱ではない」と定義した．WHO 憲章では，身体的側面のほかに精神的や社会的な側面を取り入れた概念とされる[1]．

そして，「健康」の概念が進歩するものとして，1978 年のアルマ・アタ宣言や 1986 年のオタワ憲章がある．アルマ・アタ宣言はプライマリーヘルスケア，オタワ憲章はヘルスプロモーションをキーワードとして挙げた．

(2)Healthy City Project

WHO では，1986 年より Healthy City Project が展開され始め，さまざまな都市開発活動と連携して，生活環境の改良と公共医療サービスの向上を通して，都市生活者の健康を増進することを目的とする．また，「Healthy City とは，健康を支える物的および社会的環境を創り，向上させ，そこに住む人々が，相互に支え合いながら生活機能を最大限に活かすことのできるように，地域の資源を常に発達させる都市である」と定義される．Healthy City にとって重要なことは，都市開発および都市管理において健康への配慮を加えることである．

4. まちづくりガイドライン

「まちづくりガイドライン」とは，各主体が目的を達成するために，互いの立場を理解したもとで地域が求める理想のまちの実現に向け，計画の規範や運用方法，運用例を示したデザイン指針であり，主な項目としてガイドラインの位置づけ，まちの概要，方針・方向性，まちの将来像がある[2]．「まちづくりガイドライン」における住民参加は，提供された情報をまちづくりに活かす視点に欠けていること，住民の意見を聞くプロセスはあるが改築につなげる方法が明確でないこと，反対する住民の意見に対する立場が明らかでないことが現状である．

5. 吹田操車場跡地のまちづくりの住民参加の可能性

(1)吹田操車場跡地のまちづくりについて

本研究のケーススタディとして実際に事業が進んでいる吹田操車場跡地のまちづくりとした．このまちづくりは，2018 年に国立循環器病研究センターと吹田市民病院が操車場跡地に移転予定であり，現在 2 つの病院の移転のほかに複合商業施設，複合居住施設，公園，住宅等の建設が進んでいる[3]．

(2)吹田操車場跡地のまちづくりの住民参加の可能性

現在，吹田操車場跡地健康・医療のまちづくりは，吹田市等の行政が主体となって進められており，住民がこのまちづくりに参画している様子はほとんど見られないのが現状である．この地域に住む健康や医療に関心のある住民の意見を取り込むべきであると考える．

吹田操車場跡地のまちづくりに住民が参画する例とし

E-mail：Ryota Kitamura　ryo.1217.r.k@gmail.com，Keiichi KITAZUME　kitazume@kasai-u.ac.jp

て，2014 年 7 月から供用を開始した緑の遊歩道の管理，まちづくりのマネジメント組織への直接の参加，医療・健康への側面をサポートすることなどが挙げられる．

6. 吹田操車場跡地健康・医療まちづくり市民グループ

(1)市民グループ結成の背景

吹田操車場跡地の健康・医療のまちづくりに住民が参加していくためには，勉強の必要性・組織化の必要性・行動の必要性があると考えた．そこで，吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」が発行する市民公益活動団体の活動内容紹介冊子『吹田市ボランティアグループ・NPO ガイドブック平成 25 年(2013 年)度版』の中で，「保健・医療又は福祉の増進」分野で活躍されている団体，吹田操車場跡地がある岸辺に関わりのある団体を対象として，吹田操車場跡地健康・医療まちづくり市民グループを結成した．

(2)第 1 回勉強会

吹田操車場跡地健康・医療まちづくり市民グループ第 1 回勉強会を 2014 年 12 月に行い，19 名の方に参加していただいた．第 1 回勉強会の主な内容として，吹田操車場跡地のまちづくり概要説明と意見交換を中心に行った．また勉強会の開催と同時に，健康まちづくりのイメージ，健康に関する取り組み，勉強会に対する初期評価をしてもらうためのアンケートを行った．

表 1　アンケート質問項目

質問項目
Q1：なぜ勉強会に参加しようと思ったか？
Q2：吹田操車場跡地健康・医療まちづくり市民グループに期待することは何か？
Q3：健康・医療のまちづくりと聞いたとき、どんなことをイメージするか？【自由記述】
Q4：現在、自分自身で行っている健康・医療に関する取り組みについて【自由記述】
Q5：健康・医療のまちづくりを推進していくために最も必要だと思う取り組みについて
Q6：吹田操車場のまちづくり(健康・医療のまちづくり)において、住民はどのように参画していくべきと現時点で考えているか【自由記述】
Q7：第1回勉強会に参加してみてどうだったか
Q8：次の勉強会も参加したいと思ったか
Q9：今後、グループで考えてみたいテーマ【自由記述】

(3)アンケート結果

まず, Q1 の参加のきっかけに関する質問に対しては，健康・医療のまちづくりへの興味と今回の勉強会への案内に興味を持った人がほとんどであり，吹田操車場跡地よりも健康まちづくりに対する興味のほうが高いことが伺えた．また，Q3 の参加した住民の健康まちづくりの捉え方としては，健康・医療・福祉の総合的なまちやノーマライゼーションの理念などの考え方があること, Q4 の住民が行っている健康への取り組みとしては，運動や健康食品を食べるなどから住民自身の健康まちづくりに対する関心の高さを改めて確認することができた．

図 1 には Q5 の健康まちづくりを推進するために住民が必要と思う取り組みを示しており, 市民の自立的な参加や健康づくりができる場所の整備が共に 22%と最も多かった．また，医療機関の参画や企業の協力など他の主体への期待も強い．Q6 の住民が考える健康まちづくりに対する参画への期待として, 主体的にある程度実行できるような形や行政への積極的な提案がある一方で，現状は行政主導であるために住民の参画は難しいという意見もいくつかあり，やはり他の主体とのパートナーシップを意識した関係性については模索中とみることができる．

最後に初期評価であるが, Q7 の勉強会の評価は, ほとんどの参加者がよかったと回答しており, Q8 の次の勉強会に対する参加意欲も良いことが明らかとなった．

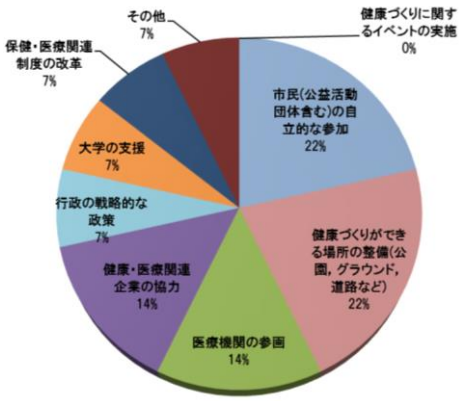

図 1　健康まちづくりを推進するために必要と思う取り組み

7. おわりに

健康まちづくりは，多くの住民に関わる問題であることから，特に住民の主体的な参画が期待できるはずであるが，具体的なまちづくりを進めていく上で，どのような具体的行動をとれば発言力を増すことができるかは，模索状態である．今後, 勉強会等を重ねていくことで，住民のまちづくりへの主体的参加の実現に結び付けたい．

なお本研究は，関西大学先端科学技術推進機構の「健康まちづくりのためのソーシャルデザイン研究会」の研究の一環として実施した．ここの謝意を表したい．

参考文献

(1) WHO 西太平洋地域事務局 : 健康都市プロジェクト展開のための地域ガイドライン, 2000.
(2) 小林英嗣＋地域・大学連携まちづくり研究会：地域と大学の共創まちづくり, 学芸出版社，2008.
(3) 吹田市：東部拠点のまちづくり計画, 2009.